

本書の使い方

●5つのStep

本書は以下のような5つのStepによる構成になっています。単に問題を解くだけでなく、それぞれのStepにおける目的を知って、学習の効果を高めましょう。

Step1 重要文法・構文・表現の確認

語句補充，語順整序など，重要文法事項の総復習をします。入試問題に挑戦する前に確認として使うとよいでしょう。入試本番と同様に語句補充，語句整序など，実践的な設問形式別になっています。解答・解説には，その問題に該当する文法事項，解答を記し，そのあとにワンポイントアドバイスのような解説を加えました。

Step2 総合読解問題 1

比較的短めの文章題を入試問題から集めてあります。問題のレベルは標準的です。会話文，説明文，物語文，エッセイなどのジャンル別になっており，それぞれのジャンルの文章の特徴や問題を解く上での着眼点・注意点についての詳しい説明があります。

Step3 総合読解問題 2

Step2よりもさらに長い文章題を入試問題から集めてあります。難易度が高めの問題もかなり含まれています。Step1，2で基礎の確認と基本的な事柄を押さえ，一般レベルの入試問題をこなした次の段階として，さらに難しいレベルの文章に慣れていきましょう。Step2と同様に詳しい説明がありますので，正解できた場合についても目を通しておくとよいでしょう。

Step4 英作文問題

この章では，さまざまな形式の英作文問題を入試問題から集めてあります。どのような形式の問題が出てあわてることなく対応できるよう実をつけていきましょう。それぞれの問題について，英語で表現する上での着眼点や考え方を説明してあります。また，英作文問題では答えが1つとは限りませんから，いろいろな表現ができるようになるよう，別解も豊富に示してあります。

Step5 総合読解問題 実戦演習

力試しとして，特に難易度の高い問題を入試問題から集めました。解説・解答編では，Step2～4にあるような「チャレンジのポイント」「読解の基本」「この問題のポイント」「重要文法事項・構文」はありませんから，実力でどれくらい得点できるか試してみましょう。ある程度正解できても，長文の内容があまり理解できていないようならば，解説と全訳を読んで，内容と意味がつかめなかった英文の構造を完全に理解できるようにしましょう。

●問題編，解説・解答編の構成 (Step2～5)

問題編，解説・解答編のそれぞれにおいても，効果的に実力を養うための工夫がされています。問題を解いて答え合わせをするだけで終わるのではなく，各データやコーナーの意味を知って，有効活用してください。

<問題編>

1 出題時のデータ

出題都道府県・高校，時間・満点，大問数の情報に加え，志望校レベル別目標解答時間を設定してあります。本書で扱っている問題は，あくまでも全体の入試問題のうちの一部です。時間・満点と大問数は，問題全体に対する，その大問の占めるウェイトなどが参考にできるように，記しました。志望校レベル別目標解答時間は，実際にはどれくらいの時間をかけて1つの大問を解かなければならないかの目安にしてください。時間の目安は最上位校，上位校，中堅校によって設定してあります。最終的には示されている時間内で問題をこなすことを目標としてください。なお，公立高校の学校独自入試実施校の出題として掲載されている問題でも，その後の入試制度の変更により現在は独自入試を実施していない場合があります。

2 チャレンジのポイント

それぞれの問題を解く上での着眼点や注意すべき点を簡潔にまとめてあります。Step4まではどういう点に注意しながら問題に当たればよいかを明確にしてから問題に取り組むとよいでしょう。

3 問題

問題は，より実践的な雰囲気が味わえるように，実際に出題された形を基本として掲載しました。表記，番号，記号，下線，カッコの扱い，そして語句や表現についての注釈なども，出題時の形にしたがっています。解答の記入欄についても実際の解答用紙の解答欄に近い形式にしました。

また，重要度の高いと思われる小問には★印を付けました (Step5を除く。解説・解答編にも対応する小問には★印)。実際の入試で類似する形式の問題が出題される可能性のあることを意識しながら，問題にトライしたり解答を確認したりするとよいでしょう。

<解説・解答編>

4 解説

各問題の**解説**（と総合読解問題〈英作文問題の一部〉では長文の**全訳**）に加え、本書では次の各コーナーを設け、より理解を深められるように工夫しています。

- ・ **読解の基本／英作文の基本** 総合読解問題（Step2・3）、英作文問題（Step4の冒頭）それぞれに、問題を解く上で注意すべき事柄、解法の基本をまとめてあります。総合読解問題では、会話文、物語文、エッセイ、説明文などのジャンルごとにまとめてありますので、一度じっくり読んで、ジャンルごとの文章の特徴や、英作文のコツなどを覚えてください。総合読解問題で高得点をあげるためには、語句・文法の知識のほかに、文章のジャンルの特徴や性質を知ることが重要な要素となります。また、英作文問題でも、ただ語句・文法の知識があるだけでは十分とは言えず、それをどう生かすか、どのように英文を組み立てるか、といった考え方を身につけることが重要です。このコーナーをじっくり読むことは、すでに持っている語句・文法の知識を十分に活用できる力の養成に大いに役立つでしょう。
- ・ **この問題のポイント** 問題ごとにポイントとなる箇所や着目すべき点を、細かい単位で解説してあります。このコーナーを読み、一度解いた問題をより深く理解することで、復習の効果は格段に上がります。
- ・ **重要文法事項・構文／本問で使える表現・構文** 総合読解問題では、各問題に出た文章から構文の難しい文や、重要語句・重要文法事項を含む文を抜き出して解説してあります。また、Step4「英作文問題」では、それぞれの問題で使いそうな構文や表現をまとめてあります。難しい文についての解説をじっくりと読んで、英語の理解を深めてください。なお、Step4「英作文問題」で「本問で使える表現・構文」の内容を省略している問題がありますが、これは、出題形式の性質上、「この問題のポイント」で重要な表現や構文に触れていることによるものです。

※重要語句・表現

Step 2・3・5で出てきた重要な語句・表現を、それぞれの章末にまとめました。ここで取り上げる語句・表現は、問題ページの長文では、色のついた文字で示されています。公立高校の入試では、難しい語句には注がつけますが、その語（句）の意味を知っていれば、英文の意味もさらにつかみやすくなり、読むスピードも速くなります。少々難しい表現でも、積極的に覚えていくという姿勢が実力のアップを加速させます。

5 解答

各都道府県や高校から公表された解答例のほか、新たに解答例を加えてあるものもあります。正解できた場合でも、ほかに解答例が記されている場合には参考にしてみましょう。

目次

はじめに	2
本書の使い方	3

Step1 重要文法・構文・表現の確認

1 語句補充問題	8
2 語形変化問題	10
3 語句整序問題	12
4 書き換え問題	16
5 正誤問題	20
6 英文和訳問題	22
7 和文英訳問題	25

Step2 総合読解問題 1

1 会話文	28
2 会話文	34
3 説明文・会話文	38
4 会話文・説明文	45
5 物語文	51
6 物語文	60
7 エッセイ	66
8 意見文	71
9 手紙文	76
10 スピーチ文	82
重要語句・表現	88

Step3 総合読解問題 2

1 会話文	90
2 会話文	97
3 説明文	104
4 説明文	112

5	物語文	120
6	物語文	128
7	エッセイ	135
8	Eメール文	144
9	スピーチ文	153
	重要語句・表現	160

Step4 英作文問題

1	自分の思い出の品物について発表する	162
2	イラストの吹き出しに合う英文を作る	166
3	英語の質問に対して自分の意見を答える	169
4	メールのお礼と相手へのアドバイスを書く	172
5	日本語で書かれた文を英語に直す	176
6	会話文の一部を英文で表す	181
7	イラストで示されたストーリーを英語で表す	186
8	メールで相手の質問に答える	190
9	会話文の内容を踏まえて語群から語句を選び、その選択理由を述べる	194
10	与えられたグラフに基づいて自分の考えを述べる	198
11	与えられた資料に基づいて自分の考えを述べる	202
12	与えられた意見に対して自分の意見を述べる	208
13	与えられた意見に対して反論する	212

Step5 総合読解問題 実戦演習

1	会話文	216
2	講演	224
3	説明文	231
4	物語文とメール文融合	236
5	エッセイ	245
6	物語文	253
	重要語句・表現	263

3 説明文・会話文 解説・解答

▶ 説明文読解の基本

1 説明文の構成

説明文は、客観的な事実や事象を論理的に説明して読者に伝えることを目的とした文で、基本的には次のような構成で書かれる。

・主題の提示

説明文では、最初の段落で説明しようとする主題が示されるのが普通である。まず、冒頭の段落から、何について書かれた文章なのかをつかむことが必要である。ただし、最初の段落が主題を導くための導入部分の働きをして、実際の主題が第2段落で述べられる場合もある。

・論理・考察（具体例・因果関係などの提示）

論理の展開を押さえながら読み進めることが重要である。第2 [3] 段落以降では、冒頭で示された主題を論理的に説明するために、事実を裏付ける具体例を示したり、因果関係をはっきりさせたりしながら話が展開する。どんな事実の具体例なのか、何が原因となってどのような結果になるのか、ということを読み取る訓練を積もう。

・結論の提示

最終段落では、結論として筆者が明らかにしたいことが示される。示された結果をばくぜんと読み取るのではなく、それまでの論理展開にしたがって、なぜそのような結論が導かれるのか理解することを意識して読もう。

2 読解のポイントとなる語句

論理の展開をつかむためには、次のような語句を目印として読むことがポイントとなる。

<因果関係を表す語句> because 「～なので」、so 「だから」、so ~ that … 「とても～なので…」 など→原因と結果をつかむための目印となる。

<例を示す語句> for example 「たとえば」、… and so on 「…など」、~ such as … 「(たとえば) …のような～」 など→抽象的に説明されたことを明確にしたり裏付けたりするための、実際の例が示される。

<逆接を表す語句> but 「しかし」、however 「しかしながら」、though[although]

「～だけれども」など→<逆接>を表す語句のあとに、筆者の伝えたい内容や、筆者が支持する考えなどが書かれることが多い。

※ p.30 「Step2 総合読解問題 1 1 会話文」の「会話文読解の基本」も参照しよう。

この問題のポイント

(ア)～(ウ)は、形式は異なるが、いずれも文の前後関係や、文脈をつかむ力を問う問題である。それぞれ以下の点に注意して英文を読もう。

(ア)

接続詞の働きに注意する。

空所に入る接続詞を選ぶ問題。空所の前後のつながりを考えることはもちろんだが、接続詞には次の2つの種類があり、それぞれ使い方が異なることを理解しておく必要がある。

- ・等位接続詞 (and, but, or, so など) 文と文を対等の関係で結ぶ。A and[but, or, so] B 「Aそして〔しかし、それとも、だから〕B」というつながりになる。

I got up **and** washed my face. (私は起きて顔を洗った。)

- ・従属接続詞 (when, if, because, that など) <接続詞+文>がひとまとまりとなって、副詞や名詞の働きをする。

I was cooking **when** my father came home. (父が帰宅したとき、私は料理をして
 ↑ 前の文全体を修飾 いた。)
 (=副詞の働き)

I know **that** she is from New York. (私は彼女がニューヨークの出身であること
 「…ということを」 を知っている。)
 know の目的語 (=名詞の働き)

本問の場合、空所①に入る接続詞は and か but なので、<文 A (The USA won the war 「合衆国は戦争に勝った」) □ 文 B (California became part of the USA in 1848 「カリフォルニアは 1848 年に合衆国の一部になった」)>と、文 A → 文 B の順に意味を考えて、うまくつながる方を選ぶ。②、③は従属接続詞が入るので、空所の直後の文との関係でつながりを考える。②のあとの文 (gold ore was found there during the war 「戦争中にそこで金鉱石が見つかった」)、さらに (many people rushed to California … 「多くの人たちがカリフォルニアに殺到した…」) とあることから、前の文があとの文の原因となっていることが分かる。

(イ)

言いかえて説明している部分に注目する。

本問は、1つの文の意味を問う問題だが、下線部の英文だけを見ても文意をつかむのは難しい。本問のねらいは、ほかの箇所の内容から推測して、文意をつかむことである。ここでは Tom が最後の発言の部分で、**下線部の表現を言いかえている**。この発言の内容から判断する。

(ウ)

代名詞に着目する。

文脈や文の前後関係を問う問題では、**代名詞に着目することも重要**である。本問の場合では、久美の3番目の発言の **you should do it** が具体的に指す内容が、空所に入る内容になることを読み取れるかどうかポイントとなる。it が指す内容は、**before the train arrives here** 「電車がここに着く前に」すべきこと。「待ち合わせがあるのに、新幹線が約1時間遅れてしまう」という事態を念頭に置いて、it が何を指すか考えると3以外の選択肢は、すべて不自然。

重要文法事項・構文

(ア)

3～5行目 **Because gold ore was found there during the war, many people rushed to California in 1849 to find gold and become rich.**

to find 以下は副詞用法の不定詞。to のあとに動詞の原形が find, become と2つ続いているので、「～を見つけて金持ちになるために」という意味になる。

5行目 **So this was called “the gold rush.”**

call A B 「A を B と呼ぶ」を受動態にした文。主語 this は、前文の内容「多くの人たちが金を見つけて金持ちになるために1849年にカリフォルニアに殺到したこと」を指す。

(イ)

9～10行目 **Now I know why it is called one of the best movies in the world.**

why 以下は know の目的語になる間接疑問文。it is called ～ 「それは～と呼ばれる」。

(ウ)

4行目 **That's the train I have to take.**

the train のあとに目的格の関係代名詞が省略されている。この場合の take は「(乗り物)を利用する [に乗る]」という意味。

解説

- ★ (ア) 全訳を参照。① 「合衆国がメキシコとの戦争に勝った。そして、メキシコが合衆国の一部になった」と起こったことを順に並べる文にする。② 金鉱石が見つかったことが、多くの人々がカリフォルニアに殺到した原因と考えられる。③ 「大陸横断鉄道が開通した時」、さらに多くの人々が再びカリフォルニアに行くようになった」とすると自然なつながりになる。
- ★ (イ) 下線部は、見かけ上は否定文だが、実際は否定というより強調の構文である。It can't be better. で「これ以上によいものはありえない→最高だ」という意味だが、ここでは、< couldn't +完了形 >が使われ、過去のことであることを示している。この文は、「これ以上よいものはありえなかったかもしれない」という意味だが、この英文そのものの意味をつかむのは難しいので、このあとの会話の流れから、トムがその映画をよいと思っていることを読み取ることで下線部の英文の表す意味を推測する。その作業をさせるのが、この問いの作成者の意図。
- ★ (ウ) 全訳および「この問題のポイント」を参照。

全訳

(ア)

カリフォルニア州は、アメリカ合衆国の州の1つである。そこは1848年までメキシコの一部だった。1846年に、合衆国とメキシコの間で戦争があった。合衆国はその戦争に勝ち、(①そして)1848年にカリフォルニアは合衆国の一部になった。戦争中にそこで金鉱石が見つかった(②ので)、多くの人たちが金を見つけて金持ちになるために1849年にカリフォルニアに殺到した。それで、これは「ゴールド・ラッシュ」と呼ばれた。カリフォルニアの人口は、約10万人に達した。それから、1850年にアメリカ合衆国の31番目の州になった。1869年に大陸横断鉄道が開通した(③ときに)、さらに多くの人たちが、再びそこへ行き始めた。

(イ)

トム：僕は昨日の夜、昔の日本映画を見たんだ。

ケン：何を見たの？

トム：『偉大なサムライ』だよ。

ケン：それはとても有名な映画で、最高の日本映画の1つだと思うよ。気に入ったかい？

トム：これ以上によいものはありえなかったかもしれない。

ケン：おもしろくなかったという意味かい？ きみにはサムライの世界を理解することが難しいと思うよ。

トム：いいや、映画が悪かったという意味ではないんだ。とてもよかったという意味だよ。今頃は、それがなぜ世界で一番の映画の1つと言われるのかがわかるよ。

(ウ)

女性：すみません。アナウンスは何と言いましたか？ 私には理解できませんでした。新大阪行

きの電車について、何か言いましたか？

久美：はい。新大阪行きのぞみ 227 号は、約 1 時間遅れて到着します。

女性：それは私が乗らなければならない電車だわ。ありがとう。

久美：だいじょうぶですか？

女性：はい。でも、私は [大阪の友だちに電話をし] なければなりません。彼女は今日の午後に新大阪駅で私と会うことになっています。

久美：ここに電車が到着する前に、そうした方がいいと思います。

女性：わかりました。そうします。ありがとう。

解答

(ア) 2 (イ) 1 (ウ) 3